

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	近世小説の「雨月物語」
Author(s)	イングリッド ノフィタサリ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1992 : 35 - 42
Issue Date	1993-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039327
Right	
Relation	



近世小説の「雨月物語」

イングリッド ノフィタサリ

と事に とれ、た、一、は
 世安も ろさみも、本つ之魚五
 近慶と あとてあ落一巻鯉巻
 、心。で目見して酒の、の、
 れ乱人た字節をに違、本ち応」
 たの、つ文の手い者本読む夢姓
 打原情なのそいなた読はな「の
 が島世に民、担はい、」すと性
 止はが太は親要のし草物る宿「
 終てたる学概主もを世月あがは
 にいめ文をの活浮雨で茅四
 乱おて求世文学をの集浅巻
 戦にしを近文文人紙を編、
 文の期残学、世の町近双し短は」
 世前を文り近期たと草明る二釜
 中、素のあり政ま人、説成之の、
 い期要代でた化、町子にら巻津る
 1. 長初な時代わ、りて單下か、備あ
 ての的新时代的期あめ名以編」吉で
 っそ動はの年禄で極假、九約」
 上、流々)百元人、、ろはのと論
 なるお人人三、町りばあ」花」福
 権すな、町えばはわえが語菊僧貧
 政幕は見(よえら交言本物「法」
 川開にを民おと彼にと稽月と仏と
 徳が部定庶、たに密学滑雨」
 代一安はる、か親文、峰は中
 豊時、の世れ期確と世本、白三頭
 織うと応近わ時、人近情る「之青
 い件一 いるは町人あは巻「

2. 省略

行 三石り、こら は声も か指て人か
 西 安りきるさ 半お顔 し、るこ
 た 仁かみわ今、 夜とがた間、に、
 指 いては位はと、い」影った王山た
 に いる在儀か、じ位のが任れ魔のれ
 の 聞し御盛果、ま円形お奉さ、そわ
 院 とは院、の、さ、異とに刑た間表
 崇、が山て後行、物円れの天、書長豊
 る語 陵れわれ成ってでし徳体し文た時
 あ物の 離覆うい立び中か崇て刑願した
 にす院里になしさいさのすぐっ流い起い
 峰わ 院人どにま思え憂をす従を思を聞
 白交 崇、如皇さを冷、闇はに院の乱を
 のをに左草上あ養とが、に令徳と大声
) 争山「蔓、う供んうい行命崇うにる
 き論の登、さい念しろな西の、ろ下す
 め的峰ねもかと通人あは、父てな天養、
 さ想白尋えや何のしででる頃つに、供た
) (思は冬さ華、も、の夢いた奪玉ての、
) ね岐い)初れさをてはたはでいを魔し行ま
 み讚会行)そ尊のめといれんて位でを西始
 ら、と四年たのもせあてこかき地血崇。が
 しは靈(八し頃た、たれや淳生ののにた争
 (」亡僧六にたしちわいにはそや室論
 峰峰のの一おしか流没誘、院はて皇かの
 白院人一重えなをがにる朧徳仁、な悪
 1. 「、一(三仕は涙日ります崇雅破ら善
 が、年をおとに 眠が姿しをかはら
 2. 菊 花 花 約 (き っ か の ち ぢ り)
 「 菊 花 の 約 」 は 、 兄 の 弟 の 約 を 結 人 だ 赤 穴 宗 右 衛 門 と 文 部 左 門 が 菊 の

、聞た「ら重今な。れもど。が
 方がをったしはもら流木ががや
 一たとどら雲郷たえが宮とた、
 。しこもさは雨故当み涙。こっぎ
 たとのへ今い、左見にだたる待泣
 っう乱京はられも光たっきけは
 あよ戦を郎く暮育々の。だ生だて
 でのま四塚はれ家星左のてれっ
 み郷で、勝て日ま、がったえど語
 の帰郷で、めに生が影あし耐をり
 ち、故えだせて、らのでをて夫語
 して、考っ、すたか松木明人ぬは
 を得はとまも。っわを宮弁一うて
 かを郎いしてたあもれはた女帰い
 不利四までして道オのっに泣
 恨の勝られと向り、碎たが場の、
 、分。い流るへかてにけなのだと
 と十たはにい方ばれ雷あら乱っこ
 だ、ってうてのろ荒、を帰戦たた
 のしまきとっ郷かには戸箇。これ
 たくし生のま故がれち、いる秋晴
 れ尽ても夢し、ち荒うが長べ、も。
 らりれ妻がでて落くろ家、迷かみた
 て売わ、日んえてといるはをた恨い
 捨を奪け月死考めごて分郎みっい
 に絹に焼うはとことね自四しが長に
 天、賊もい木」れこが、勝苦らは床
 、は盗家と宮...垂島りそ。のつ今
 く郎で、年えはく田帰こみ分けし
 な四中てととね暗は。れの年だが
 え勝途い たえくでいころ七れし
 る妻郎ハて

三、もしは眠呼を夕
 魚、ち、を夢、殿
 が、たたえ殿らた、助
 た、つっ人み助た、
 した、買ま知ヒのにま、
 死、うしやう平鯉した、
 病、かて弟よの、てめ知
 が、師人徒在家時れ覺を
 義の漁死ため檀」うがと。
 興も、っ始は左売目こた
 僧、はりまき義いへ、ろせ
 の語時な集動興てろにあさ
 寺をろに、し、っこ時て
 井、駿あ気で少て眠と左じ捨
 三、休ま病のがし「のっ同に
)、左、左、左、左、左、左、
 上手、義あ手、日助で全を
 ん、名なた興で、左三てろと鯉
 りのとい、かどっ。れこ定た
 の絵鯉が年温る上左らと現っ
 うのに僧ろしすき釣ろが残
 お魚問うあ少。起語にれ話、
 むはのい。がたにを師らたて
 (」そとたりいう語漁切いせ
 魚魚、義したてよな、どてら
 鯉鯉し興返あった議時殆っ走
 のの生ににの守め思のに語に
 応、蘇寺水胸見覺不そめの家
 夢、に井の、間ら、。た義を
 「目三とし日かだたの興使
 日、もか三り人み食 召

会、あ、び、突、
 出、月、悩、の、
 に、に、に、に、
 亡、山、か、す、
 の、い、な、告、
 臣、う、し、が、忠、
 家、と、わ、ろ、に、
 と、せ、け、こ、治、
 次、見、と、之、珍、
 秀、を、た、ろ、作、
 白、様、い、治、あ、
 関、有、着、夜、
 イ、の、に、た、の、
 山、人、山、い、山、
 野、の、野、て、深、
 高、都、高、け、宿、
 が、た、か、た、た、
)、男、が、治、日、
 う、ろ、暮、宿、が、
 そ、い、作、あ、が、
 う、と、子、日、奥、
 然、息、た、う、の、
 ぼ、夢、が、し、も、
 っ、男、在、野、
 (」、男、在、野、
 僧、僧、に、滞、
 法、法、と、宅、取、
 仏、仏、然、別、を、
 「話、夢、り、間、
 う、ま、時、や、然、
 法、僧、

